

高規格幹線道路

日高自動車道・深川・留萌自動車道の一部が供用開始

北海道の高規格幹線道路網の一部として、北海道開発局が整備を進めている一般国道の自動車専用道路5路線（450km）のうち、日高自動車道と深川・留萌自動車道の一部が、今年の春から夏にかけて相次いで開通した。

日高自動車道

日高自動車道は、北海道縦貫自動車道苫小牧東ICから分岐して、苫小牧市を起点に太平洋沿岸を通過し、日高支庁所在地である浦河町に至る計画延長120kmの高規格幹線道路である。本路線の整備により、

- 1) 北海道縦貫自動車道と一体になって、胆振東部地方及び日高地方生活圏と、道央圏との連携強化
 - 2) 新千歳空港、特定重要港湾苫小牧港など広域交通拠点へのアクセス強化
 - 3) 日高地域の質の高い新鮮な農水産物の輸送など、物流機能の充実強化
 - 4) 高次医療施設へのアクセス改善
 - 5) 雄大な日高山脈、サラブレッドが駆けめぐる広大な牧場、変化に富んだ海岸線など多くの観光資源を生かした地域振興
 - 6) 地域開発プロジェクトの支援
- など、地域の発展に大きな効果をもたらすものと期待されており、早期全面開通が求められている。

■事業のあゆみ

昭和62年6月30日 建設大臣から高規格幹線道路の路線指定を受ける。

昭和63年4月 日高自動車道「苫東道路」が事業着手される。

平成3年3月 工事に着手する。

平成9年5月30日 苫小牧東IC～沼ノ端西IC間 一般有料道路事業の認可を受ける。

平成10年3月23日 苫小牧東IC～沼ノ端西IC間4.0kmが日本道路公団が管理する一般有料道路事業区間として開通（最高規制速度100km/h）

平成10年7月6日 沼ノ端西IC～厚真IC間15.7kmが北海道開発局が管理する一般国道として開通（最高規制速度80km/h）

■技術的特長

苫東道路の周辺一帯は、かつて海底だったところが多く、ルートの約80%が泥炭層などの軟弱地盤である。そのため「深層混合処理工法」やあらかじめ余盛りをして地盤を安定させる「プレロード工法」などを実施している。また盛土の高さも極力低くし、盛土材も重量の軽い火山灰を使用している。

構造物は、大半が杭基礎であるが、一部40m以上も支持層が出ないところがあり、「摩擦杭工法」を採用するなどして軟弱地盤対策に技術力を駆使している。また路線の起点部に位置するウトナイ周辺は、ラムサール条約に登録されているウトナイ湖と一体になって保護地帯に指定されている。この地域で広範囲に盛土をすると、周囲の自然環境を損ねてしまうため、湿原部を橋梁構造とするほか、工事用道路も「栈橋工法」を採用するなど環境の保全に配慮している。

あわせて、ウトナイ湖の流入河川であるトキサタマップ川、オタルマップ川、美々川等の湿原部を営巣地、採餌地としている野鳥たちへの配慮として、車のライトによる刺激をなくすために遮光フェンスを設置するなど、環境保全対策には最大限の努力を払っている。



日高自動車道

深川・留萌自動車道

深川・留萌自動車道は、北海道縦貫自動車道の深川JCTから分岐して、深川市を起点に留萌支庁所在地である留萌市に至る計画延長50kmの高規格幹線道路である。本路線の整備により、

- 1) 北海道縦貫自動車道と一体になって、札幌市及び旭川市を中心とした道央及び道北の都市圏と、北空知地方・留萌地方生活圏との連携強化
- 2) 留萌港、旭川空港、新千歳空港など広域交通拠点へのアクセス強化
- 3) 水産加工品、果物、野菜など生鮮農水産物の消費地への流通拡大
- 4) 周辺町村の工業団地開発の促進
- 5) 高次医療施設へのアクセス改善
- 6) 地域開発の促進や路線周辺の観光産業の振興

など、地域の発展に大きな効果をもたらすものと期待されており、早期全面開通が求められている。

■事業のあゆみ

- 昭和62年6月30日 建設大臣から高規格幹線道路の路線指定を受ける。
- 平成元年5月 深川留萌自動車道「深川沼田道路」が事業着手される。
- 平成4年8月 工事に着手する。
- 平成9年5月30日 深川JCT～深川西IC間 一般有料道路事業の認可を受ける。
- 平成10年4月11日 深川JCT～深川西IC間4.4kmが日本道路公団が管理する一般有料道路事業区間として開通（最高規制速度70km/h）
- 平成10年7月23日 深川西IC～秩父別IC間7.2kmが北海道開発局が管理する一般国道として開通（最高規制速度70km/h）

■技術的特長

工事着手から供用開始までの工事期間を短縮するために、「スーパー仮囲工法」や、跨線橋などでは「グレーチング床版工法」を採用するなどして、厳しい自然条件を克服しつつ、冬季工事を実施した。

大鳳川から秩父別町間は、泥炭性軟弱地盤が深さ8mにまで分布しており、この軟弱地盤対策として、本体盛土の法尻部に滑り止めの小盛土を行う「押し盛土工法」や、土とセメントを混ぜて地盤改良する「深層混合処理工法」などを行い、軟弱地盤の安定を図っている。

また、本地域は冬季多雪地帯であるため、ほぼ全線にわたり鋼製防雪柵を設置し、吹雪時の安全対策としている。

深川・留萌自動車道